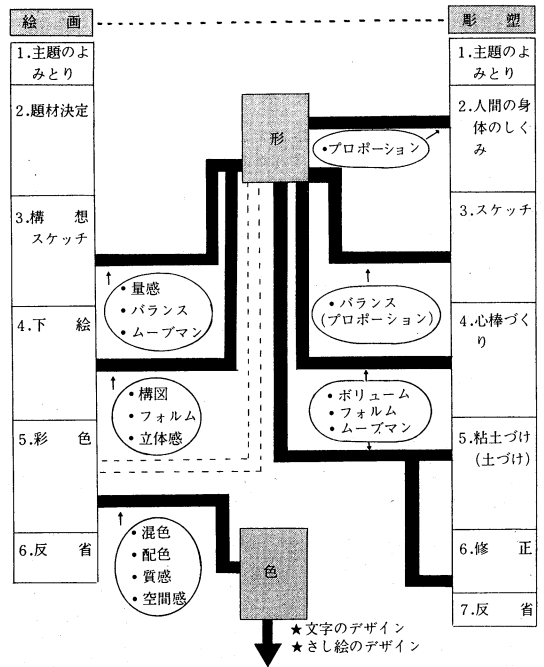


資料2 題材と関連する造形要素

題材名	主題目的構想	構図	形	色	材料用具	心情考え	学習事項
★中学校の美術							○美術学習の心がまえ
★文字のデザイン							○レタリング ○配色 マーク、標識……
★生活を描く							○構図 (構図の種類ととりかた) ○彩色のしかた ○絵画の種類 ○素描材料と表現方法 ○表示、図法
★板材でつくる							○工芸の種類 ○用具と技法 ○塗装
★美の発見と創造							○作者の心情、考え
★人物をつくる							○彫塑の分類 ○彫塑の表現方法 ○彫塑の表現要素
★さし絵のデザインをする							○色の性質、三要素、感情、色の混合、色立体 ○構成美の要素
★版であらわす							○版画の種類 ○版画の表現技法 ○木版画 ○版画の道具と材料
★原始、古代の美術							○日本の美(上古、飛鳥) ○西洋の美(原始古代)

② 授業研究の実際
 実際の学習活動の中では、一題材で基本的な造形要素を把握させることはむずかしいので、①で述べたように、題材相互の関連を図り、総合的に訓練しなければならぬ。
 ここで、絵画と彫塑学習の実践例をあげる。
 まず、絵画と彫塑の各領域で、それぞれ訓練させたい造形要素をあげてみると、その造形要素は二つの領域に関連していることがわかる。それをまとめたのが資料3である。
 授業では、絵画学習の「形の把握」は、スケッチの段階でバランス・ムーブマン(動き)を中心に訓練した。そして、彫塑の学習においては、ボ

資料3 題材相互に関連する造形要素



四、研究のまとめと今後の課題

(1) 研究実践の反省
 ① 題材における指導内容を明確にしたことよって、生徒がこの時間は何を学習すればよいのかということが理解でき、表

リウム(量感)・肉づき(立体としての凹凸)の把握に力を入れた。そのようにして関連させ、総合的に訓練することで、「形の把握」ができるようにした。その訓練、イメージの形象化につながると考えられるからである。

(2) 今後の課題
 ① 生徒の意欲を向上させるためには、表現活動だけでなく、鑑賞の面でも実践していく必要がある。
 ② 生徒の意識調査を実施し、生徒の内面を深くほりさげ、心の表現ができるようにしたい。
 ③ さらに意欲を向上させるためには、情意面の評価の研究もすすめていきたい。
 現活動の方向をつかむことができた。また、何をどう学習するのか、何をどう表現するのか、わからないまま進んでしまう授業から脱却することができて、生徒の活動も活発になった。
 ② 表現上の問題点を解決する手段として、基本的な技能を身につけさせることをねらいとして実践してきたが、題材相互に関連させて訓練したことは、生徒のイメージを形象化させる段階において効果があった。
 ③ 生徒の提出したり、描けばよいという気持ちも一歩進み、作品の表現には、意欲的なものが感じとれるようになった。

研究実践レポート